

- ◆ 計画期間 : 平成27年度～平成31年度（5カ年）
- ◆ 位置づけ : 県内ものづくり産業の技術支援の中核機関であるセンターの役割・機能、並びに技術支援の方向性を示す

## 企業支援の課題

- ✓ 企業ニーズの高度化・複雑化により解決困難なケースが増加
- ✓ 企業ニーズが高い機械設備の導入・更新・維持管理が不十分
- ✓ 製品化を見据えた設計・加工・評価の一貫支援体制が不足
- ✓ 大学・公設試・支援機関等との連携強化

## 工業技術センターの基本方針

製品化を見据えた技術支援  
 — 付加価値増大を目指して —  
 （目標：製品化支援件数50件（平成31年度））

## 支援の方向性

- ✓ 基盤技術の底上げ
- ✓ 成長分野への参入促進
- ✓ 試作支援の強化
- ✓ 地域資源を活かした製品展開
- ✓ 連携強化による効果的支援

## 工業技術センターで強化する機能

### 技術相談・情報提供

- ✓ 相談窓口機能の強化
- ✓ 工業技術センターの見える化

### 受託試験・設備使用

- ✓ 機器の計画的導入・維持管理

### 技術者養成

- ✓ 対応する職員のスキルアップ
- ✓ 成長分野を視点とした対応

### 研究開発

- ✓ 企業ニーズに基づくニーズ対応研究
- ✓ 将来を見据えたシーズ創生研究

最終製品をイメージし、様々な連携と、設計・加工・評価に至るものづくり工程全般の支援を行う

## 連携支援

- ✓ 工業技術センター内の技術分野の連携・複合化
- ✓ 不足するリソースを他企業・産業支援機関・大学などとの連携により充足

## ものづくり創造ラボ

- 研究会活動の活性化  
 工振課、産業技術振興機構等と連携した成長分野ごとの研究会活動  
 （これにより）⇒ 新たな技術やニーズ・シーズの芽出し  
 企業技術者同士の交流による、企業間連携の基盤づくり
- タスクチームによる企業との共同研究  
 異なる技術分野の研究員でチームを構成し、企業と共同研究を実施  
 ⇒ 複合技術による、付加価値の高い製品開発
- 製品化を加速する試作支援  
 設計から加工・評価に至る一連の工程を支援  
 ⇒ 取引先に提案するための「試作品」製作をスピードアップ

基盤技術の底上げ

試作支援の強化

地域資源の差別化

成長分野への参入

自動車

航空機

ロボット

環境・エネルギー

医療・福祉・健康

食品・農業

## 工業技術センターの体制

企業からのニーズなどに対し、限られた資源のもと、効率的な支援を行う体制



○本所（山形センター）  
 11の技術分野をベースとし、  
 全県を対象とした高度かつ総合的支援  
 のため、連携支援機能の強化

機械	電気・電子	金属	セラミックス	化学・表面
プラスチック	木材	繊維	食品	醸造
			デザイン	



○置賜試験場  
 地域産業の特性を踏まえ、6分野  
 に対応。  
 高度な技術課題には、本所と連携

機械	電気・電子	金属
化学・表面	プラスチック	繊維

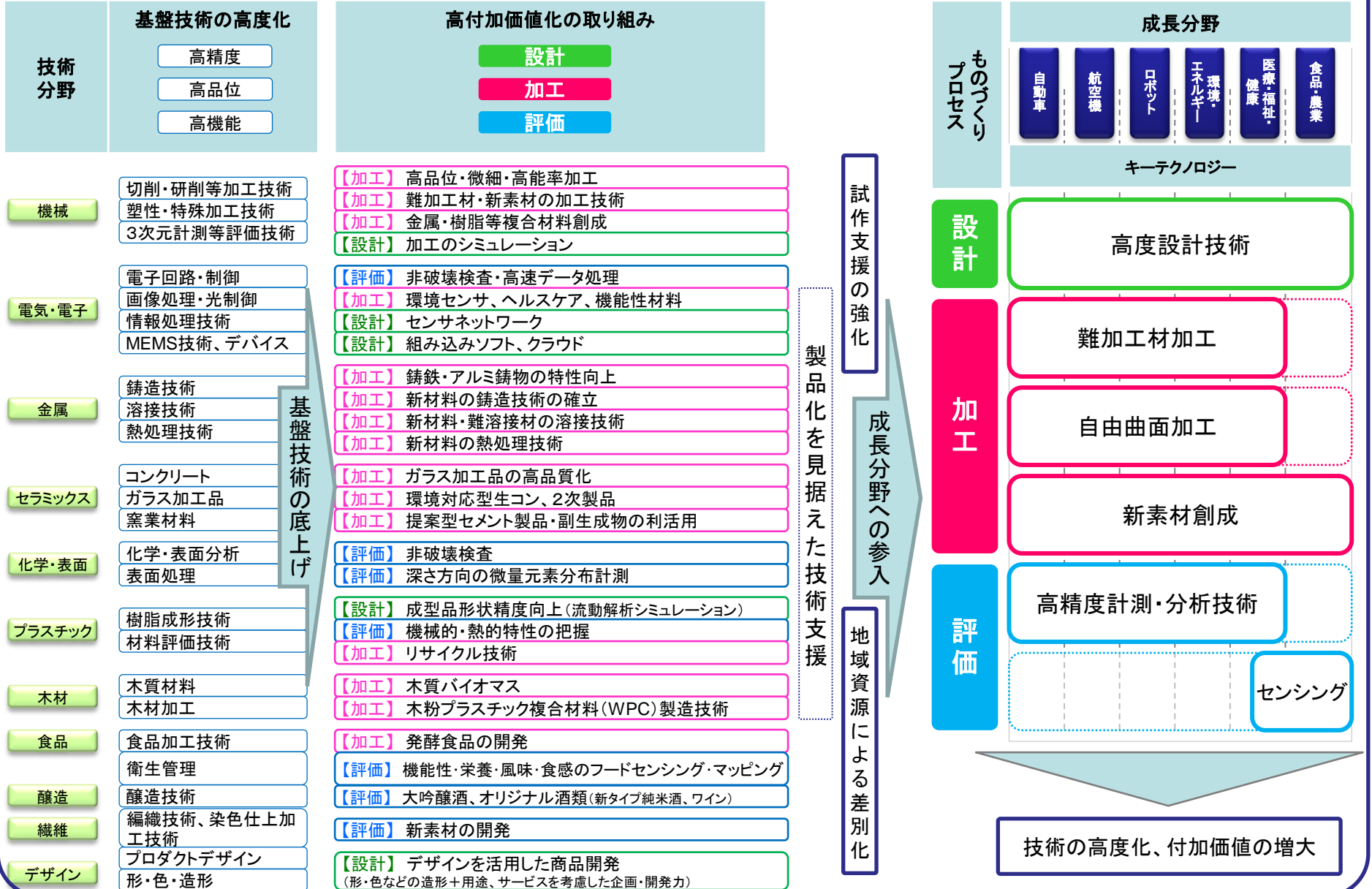


○庄内試験場  
 地域産業の特性を踏まえ、6分野  
 に対応。  
 高度な技術課題には、本所と連携

機械	電気・電子	金属
化学・表面	木材	食品

企業ニーズをベースとし、市場動向を分析しながら、産業を支える基盤技術の底上げ・高度化を行い、一步先行く技術にチャレンジすることにより、付加価値増大が見込める成長分野への参入を促進する。

## 技術支援の方向性



基盤技術の底上げ

試作支援の強化

成長分野への参入

製品化を見据えた技術支援

地域資源による差別化

技術の高度化、付加価値の増大